

没後20年春日井建展 - 三十一音のコスモス -

一ぼくは反時代的な三十一音詩を偏愛した。
 (……)ジャン・ジュネにおける鉄格子、ブルーストにおける防音装置の壁、サドやジル・ド・レイにおける城のように、短歌という制約された三十一音のコスモスを自分の王国としたかったのかもしれない。—

『未青年の背景』より

人物像、短歌や詩をはじめとした氏の文芸作品などについて、当館が所蔵する資料を中心に紹介します。

歌人・春日井建は、ともに歌人である父・春日井瀧、母・政子の長男として、昭和13年愛知県江南市に生まれました。17歳の頃から、父が編集発行人をつとめた「短歌」(中部短歌会)などの歌誌に作品を発表しはじめ、後に塚本邦雄や寺山修司、岡井隆らと前衛短歌運動を推し進めました。21歳で第1歌集『未青年』(作品社)を刊行。作家・三島由紀夫に序文で賛辞を贈られるなど、華々しく注目を集めました。

32歳の頃、第2歌集『行け帰ることなく』(深夜叢書社)の刊行をもって一旦短歌から離れますが、父の死をきっかけに「短歌」の編集発行人を引き継いで作歌を再開。晩年は、若手歌人の育成や名古屋歌壇の発展に取り組む一方で、自身も第34回短歌研究賞や第34回迢空賞を受賞するなど活躍しました。

今回の展示では、春日井建が名古屋歌壇へあたえた影響や、周りから見た人物像、短歌や詩をはじめとした氏の文芸作品などについて、当館が所蔵する資料を中心に紹介します。

トークイベント 令和6年6月23日(日)

会場 文化のみち二葉館 1階大広間

※入場無料 但し 要入館料(一般200円) 当日先着順自由席

◆第1部「“現代”から見る春日井建の歌」13:15~14:15

座談: 辻 聡之(歌人・歌林の会)

野口あや子(歌人・未来短歌会)

短歌グループtoi toi toi

◆第2部「春日井建短歌の魅力」14:30~15:30

対談: 大塚寅彦(歌人・中部短歌会代表)

彦坂美喜子(歌人・井泉短歌会代表)

出演者プロフィール

第1部

【辻 聡之(つじさとし)】

1983年、名古屋生まれ。

「かりん」編集委員、同人誌「短歌ホリック」所属。第2歌集『あしたの孵化』(短歌研究社)。

【野口あや子(のぐちあやこ)】

1987年生まれ。第1歌集『くびすじの欠片』(短歌研究社)にて現代歌人協会賞受賞。ほか歌集に『眠れる海』など。名古屋芸術大学非常勤講師。

【短歌グループtoi toi toi】

主に愛知を拠点に活動中の歌人、イトウマ、坪内万里子、吉岡優里の3人で結成された短歌グループ。2022年に第1歌集『救心』を刊行。

第2部

【大塚寅彦(おおつかとらひこ)】

1961年愛知県生まれ。

1980年中部短歌会に入会し、春日井建に師事。中部短歌会「短歌」編集発行人。歌集『ハピタブルゾーン』(書肆侃侃房)にて中日短歌大賞受賞。

【彦坂美喜子(ひこさかみきこ)】

1985年中部短歌会入会。春日井建逝去により退会。2005年「井泉」創刊に参加。現在「井泉」編集発行人。詩集『子実体日記』(思潮社)。



主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館

名古屋市東区榑木町3丁目23番地
 TEL / FAX 052-936-3836

【名古屋市旧川上 貞奴邸】

https://www.futabakan.jp

「ドニチエキっぷ」「一日乗車券」

を利用してご来館の方は入館料割引!

一般200円→160円



公式サイト



Instagram

交通のご案内

- なごや観光ルートバスめぐり「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

